

松本地域健康産業
推進協議会 会長

食への関心を高めよう

この健康産業フォーラムは、先端的な健康情報を市民の皆さんと共に共有し、ビジネスや日々の健康増進に役立てていただくことを目的に開催している。

「おコメ」には炭水化物、カルシウム、ミネラルなど多くの栄養素が含まれている。今回のフォーラムでは、おコメを健康増進の切り口として新たな販路を国内外に拡大している東洋ライスと、それを病院食に取り入れている聖路加国際病院の事例について報告していただきます。

東洋ライスは、おコメの糠層と精白米層の間にあらアスコロブスを残した「金芽米」を開発・販売している。この金芽米には松本市をはじめとする長野県産米が最も多く使われており、健康という付加価値をつけて首都圏や全国へ販売されていることを大変うれしく思う。

また松本市では、今や一般用語ともなっている健康寿命延伸の発信地となっているほか、食品ロスを減らそうと全国に先駆けて「残さず食べよう! 30・10運動」を進めている。

今回のフォーラムを通じて、あらためて食への関心を高めていただき、日々の食事をおいしく、そして残さず食べることを家庭や職場で実践してほしい。

栄養成分残す金芽米を推奨、腸内細菌の変化調べ健康効果実証も 松本ヘルス・ラボ

一般財団法人松本ヘルス・ラボは、「食事」に関する取り組みの一例として、普通白米に比べ栄養成分を豊富に残し、健康に役立つとの評価で注目を集めます。「金芽米」を供給する東洋ライスと、中島屋降旗米穀(松本市)の協賛を得て、松本ヘルス・ラボの会員に「松本ヘルス・ラボ」金芽米=写真=を優待価格で供給する仕組みをつくった。さらに市内の外食企業9店舗(8月31日現在)では、同ラボの趣旨に賛同し、使用するコメを金芽米に替えただけでなく、同クラブ会員の会員証を提示すれば、優待価格で食べられる取り組みを始めた。

松本ヘルス・ラボでは、毎日の食事に金芽米を取り入れることで健康効果が得られるとの情報に着目し、松本ヘルス・ラボの会員に金芽米を食べてもらい、腸内細菌の変化を調べることで、健康効果の実証を行なう研究の準備を進めている。さらに、実証研究の実施により、新たな事業が創出されることを期待している。

松本ヘルス・ラボは、経営者の健康寿命延伸事業に採択され、2017年に一般財団法人となり、活動の領域を広げている。

健康であるためには、運動、食事、社会貢献が重要と考え、健診・健康プログラムの提供により「市民の健康維持・向上」を図り、さらに社会貢献の一環として「市民と企業の共創によるヘルスケア産業の創出」に取り組んでいます。

講演



病院食に採用

栄養科マネジャー 岩間 達子氏

コメのおいしさ&健康革命

松本ヘルス・ラボ、松本地域健康産業推進協議会が第2回健康産業フォーラム開催

「健康寿命延伸都市・松本」を掲げる長野県松本市の一般財団法人松本ヘルス・ラボ(谷昭理理事長・松本市長と松本地域健康産業推進協議会はこのほど、本年度2回目となる健康産業フォーラムを松本市内のホテルで開いた。「コメのおいしさ&健康革命」をテーマに、「金芽米」を開発・製造している東洋ライス(銀座本社・東京都中央区)社長で東京農業大学客員教授の雑賀慶一氏、その「金芽米」を病院食に取り入れている聖路加国際病院(東京都中央区)の岩間達子栄養科マネジャーがそれぞれ講演した。

薬食同源の東洋医学を

雑賀慶一氏

「つまり、「玄米」から「粕」(こうじ)という字になる。

引き返すのに、戻らなかった。それが時代を下った健やかだった。

それが、時代を下った健やかだった。

それが、時代を下った